



香港国際警察(新警察故事 / NEW POLICE STORY)

2005(平成17)年1月13日鑑賞(東宝東和試写室)

監督・製作=ベニー・チャン / 出演=ジャッキー・チェン / ニコラス・ツェー / ダニエル・ウー / シャーリーン・チョイ / チャーリー・ヤン (東宝東和配給 / 2004年香港、中国合作映画 / 124分)

…… 50歳になったジャッキー・チェンの香港完全復帰第1作はやっぱりこれ！ ハリウッドスターと共演せずとも、この映画のような香港の若手イケメンスターや香港美女がいれば十分！ ゲーム感覚で銀行強盗をはたらく若者グループが「御曹司」ばかりというのも今風だが、ちょっと痛々しい面も……。

ジャッキー・チェンが香港に帰ってきた！

ジャッキー・チェンの最新映画は『80デイズ』(04年)だったが、これはハリウッドスターとの共演であり、ジャッキー・チェンの主演映画とはいえない作品だった。そしてこれは、少し前の『シャンハイ・ナイト』(03年)や『ラッシュ・アワー』(98年)でも同じ。

しかし、今は亡きブルース・リーには、『燃えよドラゴン』(73年)をはじめとする一連の『ドラゴン』シリーズで見せた本格的カンフーアクションが1番よく似合っていたのと同じように、ジャッキー・チェンには、その変形(?)ともいえる『ドラック・モンキー 酔拳』(78年)や『酔拳2』(94年)のような、ちょっと面白いカンフーアクションが1番よく似合っていた。

もちろん、香港の俳優がハリウッドに進出して成功を収めることは大いに価値のあることだろうが、やはりジャッキー・チェンには香港の匂いや雰囲気 が1番よく合っていると私は思う。

そんなジャッキー・チェンが英皇集團 (EEG) と共同でJCE (ジャッキー・チェ

ン・エンペラー) ムービーズを設立して、その第1回作品として作ったのがこの映画。自分の設立した会社の第1回作品を、1985年に日本で公開されて大人気となった『ポリス・ストーリー 香港国際警察』の事実上の第5作としたのは、ジャッキー・チェンがこの『ポリス・ストーリー』シリーズに愛着をもっている証拠……。

冒頭はシリアスなシーンから

映画の冒頭は、それまで香港警察で最も優秀な刑事だったジャッキー扮するチャン警部が、うちひしがれて酒に明け暮れているシーンから。あの陽気なジャッキーにこんなシリアスなシーンは似合わないが、これでもかこれでもかというほど、仕事を忘れ酒におぼれているジャッキーの姿が映し出される。

その原因は、銀行強盗の犯人逮捕の大失敗！ 部下9名を連れて、自信満々に臨んだ犯人グループ逮捕のシナリオは大きく崩れ、ゲーム感覚でチャン警部たちを翻弄する犯人たちの知恵と強力な力を前に、チャン警部は完膚なきまでに打ちのめされ、9名の部下はすべて生命を失うことに……。

チャン警部がその責任を1人で背負いこみ、自分を決して許すことができなくなってしまったのはむしろ当然……。

その波紋は恋人のホーイーにも

チャン警部の荒れようはものすごく、とても立ち直れそうなものではない。そのため、チャン警部の若い恋人、ホーイー(チャーリー・ヤン)が部屋を訪れてもドアを開けないチャンに対して、今ではホーイーも半分あきらめ気味……？ 果たしてこの2人の恋はこのまま終わってしまうのだろうか？

犯人グループは御曹司ばかり！

堂々と銀行強盗をやったのけたうえ、警察に電話し、急行してきた警察官たちを強力な重火器で殺すことをゲーム感覚で楽しんでいる犯人は、男5人女1人の若者たちのグループ。そのボスであるジョー(ダニエル・ウー)の父親は香港警察の大幹部だし、その仲間たちの父親もみんな大企業の社長ばかり。

つまりこの犯人グループは、良家のお坊ちゃんとお嬢さんたち、御曹司ばかりというわけだ。

ジョーの人物像はいかにも今風だが……？

犯人グループによって香港警察が痛めつけられ、逮捕に赴いたチャン警部たちも痛めつけられまくった後は、スクリーンの雰囲気は少し変わり、犯人グループのボスであるジョーの人物像が描かれる。ジョーの父親は香港警察の警視正という大幹部。この父親は当然一人息子に対して厳しく接し、父親の思うように成長しなかった息子に対して「このぐうたら息子！」と罵声を浴びせるのみ。他方母親は、一人息子を溺愛し、お小遣いを渡してご機嫌をとるばかり……。

こんな中で育った一人息子はどうなるのか？ ジョーが子供心にもった親や社会に対する反発心はどんな方向に向かうのだろうか？

ジョーの場合それは、自分の知能と肉体を鍛えあげ、仲間たちとともに自分たちだけの楽しみを見出すこと。

それがいい方向に向かえばいいのだが、ジョーが向かった先はパソコンおたくとなり、ゲームと同じような感覚で銀行強盗や警察官殺しのスリルを楽しむことだった。

こんな若者をどう見るか？

戦後60年を迎えた2005年の日本では、やっと「ゆとり教育」の弊害がアピールされるとともに、少年犯罪に対する見方も厳しさを増してきているが、私に言わせればそれは当然のこと。遅きに失した感があるものの、早急な舵の切り換えが必要であることは言うまでもない。こんな若者像の問題はきっと香港でも同じなのだろう……。

このようにムカつく犯人グループの御曹司たちだが、その役柄を演ずる俳優はイケメンぞろいのアイドルたち。

この映画について「中国で『インファナル・アフェア 終極無間』の3600万元を超え、5000万元を突破！——さらに更新中」とか、「香港・中国合作映画史上歴代No. 1 記録樹立！」とパンフレットに書かれているのは、そんなイケメンぞろいの若者たち目当ての女性客が押し寄せた結果かも……？

「巡査1667」ことシウホンの登場！

この映画でイチ押しのイケメン俳優は、巡査1667ことシウホンに扮するニコラス・ツェー。1980年生まれだからまだ25歳の若者だが、人気急上昇中の歌手兼俳優らし

い。犯人グループが御曹司のくせに（いや、御曹司だからこそ?）、親や社会に反発してゲーム感覚で銀行強盗や警察官殺しを楽しんでいるのに対し、このシウホンは実にいい男。落ち込んでとても立ち直れそうにない状態のチャン警部を励ましたり、巧妙に騙したり（?）しながら、再度犯人検挙に向けてのチャン警部のモチベーションを高めていくことに。

「巡查1667」という呼び方からして、「ホンマに警察官かいナ?」とちょっと怪し気だが、今までの刑事モノではお目にかかったことがないような面白いキャラクター。後半、チャン警部との二人三脚による追跡劇が始まり、クライマックスを迎えるにつれてのアクションぶりもなかなかのもの。さらに最後にはちょっと泣かせるような思出のシーンも……。

このニコラス・ツェーという香港のイケメン俳優は、これから大ブレイクしそうな予感が……。



3人の美女比べ

この映画には3人の美女が登場する。その第1はチャン警部の恋人役のチャーリー・ヤンで、パンフレット上でもスクリーン上でもとにかくすごい美人。

私の目では、「中国四大女優（四小名旦）」の1人であり、『最後の恋、初めての恋』（03年）に主演した徐^{シュー・ジンレイ}静^{レイ}蕾とイメージがピッタリ。そして私が調べたところ、この2人は共に1974年生まれで同じ年だった！ 何事も研究が大切だと痛感……？

第2はシウホンに協力し、その恋人となるパソコン担当の婦警ササ（シャーリーン・チョイ）。こちらは1982年生まれと若く、美人系（?）のチャーリー・ヤンとは違う可愛い系（?）で、香港のNo.1アイドルであるTWINSの1人とのこと。私がこのシャーリーン・チョイよりもチャーリー・ヤンの方がいいナと思うのは、やはり私が年をとったせいかな……？

そして第3は、犯人グループの中の紅一点であるスー役を演ずるココ・チャン。彼女は中国生まれの香港のトップモデルとのことだが、ちょっと生意気系（?）……こんな言いたい放題の「女優あれこれ論」を展開できる映画評論はホントに楽しいものだが……？

さて、日本での予想は……？

前述のとおり、この映画は中国で『インファナル・アフェアⅢ／終極無間』（03年）を超える大ヒットとのことだが、さらにタイ、シンガポール、マレーシアでもオープニング成績第1位を獲得したとのこと。

これはやはり中国をはじめとするアジア諸国での根強いジャッキー人気と、あのジャッキー・チェンがハリウッドから香港に本格復帰してきたことへの期待感があるためだろう。

しかし見逃してはならないのは、50歳となったジャッキーが1人だけ浮いて見えてしまうほど、多数の若手の人気俳優を起用したこと。若手俳優たちのイケメンぶりや美女ぶりは前述のとおりだが、この若手起用によって映画が大ヒットしているとすれば、ジャッキーには「老兵は去りゆくのみ」というヤバさが襲うことになるかも……？

まだまだ圧倒的なアクションの冴えを見せるジャッキーだが、これだけ多くの若手に交じると、さすがに1人だけ「おじさん」という雰囲気を漂わせることになるのは仕方がないもの。

JCEムービーズを設立したジャッキー・チェンにとって、今後どんな役柄づくりを目指すのが正念場になるのではないだろうか？ それを占う意味でも、この映画が日本でどこまでヒットするかは大切な指標だろう……。

2005(平成17)年1月14日記